

平成 29 年度第 1 回教育課程編成委員会 議事録

日 時：平成 29 年 6 月 13 日（火）14:00～15:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館 2 階会議室

出席者：小川、高田、鎌倉、藤澤、杉浦、木村、加藤、畔柳

議 長：藤澤校長（記録：畔柳）

1. 開会のあいさつ

副校長から開会のあいさつがあった。

2. 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、職業実践専門課程の認定についての報告があった。

3. 委員の委嘱並びに出席者の紹介

「名古屋芸術大学保育専門学校教育課程編成委員会内規」（資料 1）の説明後、資料 2 に基づき出席者紹介があった。

4. 本校の概要説明

(1) 平成 29 年度教育理念・教育目標・求める学生像・めざす学生像・経営方針・職業実践専門課程の認定について、資料 3 に基づき杉浦より概要説明があった。

校長より補足説明として、卒業時の姿としての目指す学生像と、職業実践専門課程にこれからどう取り組んで行くかが課題であることが述べられた。

(2) 平成 29 年度学生数状況について、資料 4 に基づき杉浦より概要説明があった。

(3) 平成 28 年度就職状況について、資料 5 に基づき木村より概要説明があった。

平成 29 年度学校パンフレット・平成 30 年度入学生学生募集要項（冊子資料）について、杉浦より紹介があった。校長より、平成 29 年度はパンフレットを簡略にした旨の説明があった。

(4) 教育課程について、講義要項 2017（冊子資料）について、杉浦より紹介があった。

校長より、業実践専門課程としてふさわしい内容に可能な限り変えていかなければいけないためのご意見をいただきたいとの発言があった。

(5) 平成 29 年度前期・後期時間割表について、資料 6 に基づき、木村より概要説明があった。

(6) 平成 29 年度年間事業計画について、資料 7 に基づき、木村より概要説明があった。

(7) 教育・保育実習の取り組み・実習期間について、資料 8 に基づき木村より概要説明があった。

(8) 専攻分野に関する企業団体等との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていることに関して、また、企業等との連携した実習・演習等に関して、資料 9 に基づき、畔柳より概要説明があった。

(9) 自己評価、学校関係者評価について、資料 10 に基づいて、畔柳より概要説明があった。

(10) 学生による授業評価について、資料 11 に基づいて、杉浦より概要説明があった。

(11) 平成 28 年度第 2 回教育課程編成委員会議事録と意見の反映について、資料 12 に基づいて、杉浦より概要説明があった。その中で、委員による改善に向けての提言は 5 つに集約でき、それに向けて改善を進めて行きたいとの説明があった。

(12) 再課程認定（教育職員免許法の改正に伴う）について、資料 13 に基づき、杉浦より概要説明があった。

5. 協議

(1) 説明に関する質疑

意見：教育実習と保育実習の指導教員は同じ教員か。

応答：別の教員である。教育実習 I の課題が保育実習 I にうまく繋がっていくといいと考えている。

意見：学生は教育実習、保育実習の違いがキチッと整理されて頭の中で考えられるのか。

応答：大学のように教育実習、保育実習が選択であると、それぞれ関連なく指導を行う必要があるが、本校は教育実習、保育実習ともに必修である。そういう意味でくくって見てしまうという面はある。

意見：大学では保育所実習を担当している一方で幼稚園の園長をしている。園長として実習生のお礼状を見ることがある。今まで大学では教育実習と保育実習ではそれぞれ別々の教員が指導してきた。今は、教育実習担当の教員に情報を渡している。教育実習、保育実習は性質の違いがあり指導の形は違うものの、一方ではどう協力してそれぞれ良くしていくのか。4 回の実習を通してより実践的な学生にしていけるかが大切である。

応答：保育実習で「教師」と書く学生や、教育実習で「保育士」と書く等、根本的なところで把握できていない学生がいる。本校では礼状については提出させ目を通して見る。

意見：私学共済や社会保険など、まるっきり分からない学生がいる。勤め先の保険、身分保障などについて理解できるようにしておかねばならない。社会人としての教養、知識が必要である。どこかで教えていく必要があるのではないか。

応答：社会保障のことなども就職指導の中に入れていくことは可能である。両園の担当者が講話をする等していくことは大切であると考える。

意見：職業実践専門課程が通って何よりである。この学校の強みは幼稚園、保育園が併設されている点であり、連携のやりやすさにある。また、少人数教育を実践している。PR すべき所は明確にある。また専門職大学を目指している。

保育科第二部は長年、低額な授業料で社会貢献している。就職については、昼間部の全卒業生に対して就職率 89%であり役目は果たしていると言える。他校と比べても、良い数値である。

応答：目的意識がはっきりした学生が多いのは確かである。最近は退学者が減ってきている。厳しい社会情勢の反映かも知れない。

応答：本校の特長として同一敷地内に幼稚園と保育園を持っている点が挙げられる。(プレ実習、本実習の繋がりを示した資料をもとに説明) 学生にとって、本当に有意義な実習の持ち方を検討していく必要がある。教育実習、保育実習の基礎段階を両園で行い充実したものにし、外に行く実習へうまく繋げていけるよう、今後の検討材料にしたい。

応答：教室と現場の往還を基礎とした実践的な学びを充実していく。二部の学生は 8 割以上が保育現場でアルバイトをしている。3 年生に至っては全員である。ボランテ

ィアが話題にとりあげられるが、本校夜間部ではお金をもらって働いている。この違いは大きい。学生は切実な問題の相談に来る。

応答：両園の保育者が授業に参加する体制をとっていきたい。学生と年齢の近い若い先生方に現場体験を語ってもらい、授業の活性化に繋げたい。

応答：滝子幼稚園でのプレ実習では、観察ではなく、子どもと一緒に遊ぶといったことを基本にした参加実習を実習当初より行っていくことで気づきを促している。そして、気づいたことを整理、年齢別に討議・集約し、その後担任に質問し回答をしてもらうといった活動を4回繰り返している。この活動を通して、9月からの教育実習Ⅰに向けての自己課題を見つけてもらえたら良いと思っている。もちろん自己課題はより具体的な検証可能なものであり、自己努力ができるものにしていくことで、学生がチャレンジできるものにしていく必要があると思っている。

意見：市役所から保育所へ、Twitter等で園の情報を流す人がいるので、個人情報等について注意喚起するよう指導があった。特に保育園は最近IT化が進み、情報発信にしても、制限を自覚し、注意していかなければならない。

意見：子どもの主体性、運動遊び、造形遊びといった滝子幼稚園の研究テーマがあって、それが本校の教育とつながる。その分野に強い学生を育てているということになる。附属を持っていてそうした繋がりを持っている学校は少ないと思う。

応答：現在、造形で本校教員が幼稚園に行き指導している。滝子幼稚園では子どもが自ら取り組むということが一番の基本にしている。そういった保育の方法論というものが実習の中で学生に伝わり、主体性を育てるというお題目を唱えるだけでなく、現実にも力として身に付いていたら、就職時に強くアピールできる。実習に行くからには、価値のある実習を行って来て欲しい。学生の疑問に答える等、一つの大きな方針の下で保育を行い、カリキュラムまで具体化されている。そういうことが分かる様な園が良いと思う。

どの様な連携が出来ていくのか、この会で良い案を出していただいて、私たちの行ったことをここで報告していきたいと思っている。

意見：名古屋芸術大学子ども発達学部に編入学する本校の学生は意識が高い学生が多い。専門学校での問題意識の高まりが4年生大学での学習意欲に繋がっている。

応答：大学に編入した学生への何らかの支援策を大学は講じていただきたい。若い滝子幼稚園の教員が年に一度でいいから、本校に来て話をする。その力は十分ある。年齢が近いから、そして現場での話をするから説得力がある。

8. 今後の予定

・次回開催 平成29年11月27日(月)午前～

創立60周年記念行事の日であり、午前中は学生の実習の様子と両園の公開保育を見ていただき、ご意見等をいただく予定である。